

朝礼 校長講話（11月19日）

今日もこうして、多くのこの表彰ができとてもうれしく思います。

そして今、その表彰をしながら思ったことを話そうと思います。今、表彰を受けた子は、部活動でがんばったり書写コンクールで美しい文字を書いたりし、それが優秀だったということで賞状をいただきました。それはとても素晴らしいことです。でも、だったら、もっと自分に自信をもってもよいのではないかと思ったのです。いつそれを思ったかというと、名前を呼ばれる時の返事の声聞いた時です。もちろん、しっかりと大きな声で返事ができた人もいますが、そうでなく小さな声、返事をしたかどうか聞き取れなかった声の子もいました。それはとってももったいないように思います。これだけの成績を収めたわけですから、もっと胸を張って自信をもって「はい！」という返事が聞きたかったな、と思います。

人にはさまざまなよいところがあります。文字を美しく書くことができる子、速く走ることができる子、遠くまで正確にものを投げることができる子、など。しかし、残念なことに先生は皆さんの書いた文字を一人一人じっくりと見たわけではありません。部活動の試合をすべて観ているわけではありません。本来、それらと返事はまったく別のもものはずですが、「はい！」という大きな返事を聞くと、「あ、この子はきっと試合でいいプレーをしたんだな」と思ってしまいます。本当はそんな評価の仕方は間違っていると思うのですが、そんなふうに感じてしまうことはよくあります。

先週、アメリカの大リーグの選手たちと日本のプロ野球選手たちとの試合が行われ、日本がとてもよい成績を残しました。そのことについて大リーグのブログとかツイッターにこんなことが書かれていたそうです。もちろん、ホームランを打つなどして大活躍をした柳田選手のこと書かれていましたが、「日本の野球場は安全をととても大切にしている」というコメントがあったそうです。なぜかということ、日本の野球場では当たり前で、球場で野球観戦をした子も聞いたことがあると思いますが、バッターがファールを打つと、

「ファールボールにご注意ください」

と場内アナウンスが流れます。それはアメリカの球場ではないようで、それがとても新鮮だったようです。

このように、まったく無関係のものでも、時には結びつけて全体像をつくりあげることがしばしばあります。たかが「返事」、されど「返事」です。毎日、とってもよくがんばっている皆さんだからこそ、そんなところもしっかり意識できるとよいと思い、話をしました。